

令和7年3月1日

3月 ちびっこの森通信 vol.242

☆☆今月のテーマ☆☆

- ・ひなまつり会をお友だちと一緒に楽しむ。
- ・身近な自然の変化に気づき、春のおとずれを知る。

～今月の園内学習～

- ・足し算…6の段
- ・掛け算…6の段
- ・数字カード…1～20の数字
- ・食べ物カード…今月の旬な食べ物
- ・漢字カード…小学校1学年で習う漢字30
- ・歴史カード…「源頼朝」ほか
- ・ひらがなカード…「な行」
- ・国旗カード…タイほかアジア各国
- ・地理カード…東京都ほか関東地方
- ・声に出して読みたい日本語…論語ほか
- ・英会話…動物、曜日、季節の種類
- ・魚への漢字…「しいら」「たなご」
- ・木への漢字…「うめ」「すぎ」

～保育のポイント～

赤ん坊は親の都合など少しも構わず、お腹がすいたといっちは泣き、大便をしたといっちは泣いています。つまり、こどもは本来、極めて自己中心的でわがままな存在です。しかし、赤ん坊も、自分の要求が必ずしも通るとは限らないという体験を繰り返しながら育っていく内に、次第に社会性が発達し、自分のわがままを控えていくようになります。昔も今もわがままな子はいますが、昔の「わがまま」には、何不自由なく育った世間知らずという響きがあり、それをこどもの世界でも「是」とすることはなかったように考えられます。しかし、「少子化」と言われる昨今は、こどもに親がかかる時間が当然、多くなり、「わが子可愛さ」の余りにこどもの要求は何でも通してしまいがちで、わがままは助長される傾向にあり、結果としてわがままな子が育ちやすい家庭環境と言えるかもしれません。そこで、この傾向を直すには、これまでの親子関係を根本的に洗い直すと同時に、こどもに自分のわがままを客観的に認識させることも大事と言えます。それには、心理療法でよく行われている「ロール・プレイング」(役割演技)という手法を取り入れてみるのはいかがでしょうか。「ロール・プレイング」とは、ある役割を演じさせることによって、自分自身を見つめ直させることを目的としたもので、いじめっ子などの問題児が、いじめられっ子の役割を演じるだけで、その粗暴な性質が改められていったという例は数多くあると聞きます。この「ロール・プレイング」を生かすとするれば、年下のこどもの世話をさせるというのが、もっとも手軽な方法であり、自分より年下の子の世話をすると、自分のわがままが通らないことをまず発見するはずで、世話をすることは、否が応でも、相手の要求に応じなければならない面があるからです。また、相手のわがままな面につづかって、わがままというものが周囲の人にどんな感じを与えるのかも、年下のこどもとの関係から学んでいくでしょう。このようなことが分かってくると、周囲の大人がヤイヤ言わなくても、そのこどものわがままな面は自然と少なくなっていくはずで、～「しつけの知恵(多湖輝著)」より抜粋～



さくら組だより



ぶるぶると身震いする寒さの中、発表会の練習の前後は外遊びで元気一杯なところを見せています。みんなは一つ上へ進級しておにいちゃんになるんだという意識から上着の着脱や給食時の箸への移行など、できることに力を注ぎ頑張る姿が見られ、頼もしく感じています。また、体操教室で取組んできた鉄棒の足掛け回りができるようになり、畳んだ縄跳びロープをズボンに挟んでする、しっぽ取りゲームでは鬼役がみんなを追い、しっぽを取られたら待機するというルールを守って楽しんでいる姿に成長を感じます。クッキングでは蕪の葉っぱを千切ったり、人参などを包丁で切る体験をし、みんなであったかポトフに舌鼓を打つことができました。最後に先月のメインイベントの発表会では朝の会でディズニー体操などの普段の様子や元気一杯のダンスなどを披露できて、年中クラスへの準備も万端で最後の3月に仕上げをしていきたいと思ひます。



ひまわり組だより



暦上は「春」なのになかなかお目にかかれないばかりか、逆に「冬」へ後戻りしているかのような錯覚に陥ってしまう天候続き…そんな中ですが、みんなは寒さを吹き飛ばすぐらいの勢いで外を駆け回り、元気一杯なのが何よりです。先月の節分会では、紙芝居「まめたろうとおに」で由来をふりかえり、自慢のお面を披露しあったりして盛り上がりを見せました。当日は「鬼が来る」というのはお約束で心得ていたとはいえ、いざ鬼の登場には驚きを隠せないところも見られましたが、そこは年中児の意地を見せて頑張って鬼退治の豆まきをする健気な姿には感心させられました。発表会ではディズニー体操やフラッシュカードなどの朝の会で日頃の様子を見て頂き、ダンス好きなひまわり組のみんなは2グループに分かれ、リズム感と表情豊かなダンスを披露できたのには改めて成長を実感させられました。今年度も残すところ1ヶ月となりますが、年長児へいい形でバトンタッチできるように最後まできちんとフォローしていきたいと思ひます。



ゆり組だより



メダカの水槽の水面に氷が張り、氷点下の気温に手先がしびれる思いなどは久方ぶりで最強寒波には驚かされるばかりの如月でした。いよいよ園最後の発表会とあって、みんなの思い入れの強さが劇の選定、配役決めや舞台装置の準備、劇の中で使う挿入歌や各自の台詞や台本づくりなどの各所に表れていたのには流石だなと感心しきりの出来でした。実際の発表会の場では各自が生き生きと自信の満ちた表情で持ち場持ち場で演技切り、最高の出来のオペレッタ劇を演技切ったので改めて年長児パワーに驚かされました。年長児活動で取組んできた鍵盤ハーモニカでは一人ひとりが片手や両手を駆使して楽曲を協同で演奏しきれたのも感動ものでした。最後の合唱では日頃、お互いに息を合わせ、生き生きとしたハーモニーを奏でることができたのも年長児として素晴らしい出来を披露できたと思ひます。これから残り1ヶ月を有益に活用し、本格的な就学期への着実なステップアップが図れるようにフォローしていきます。



給食だより

～風習には「食」からの学びあり～



今日3日は、女の子の健やかな成長や幸せを願い、ひな人形を飾ってお祝いする「桃の節句」。日本には古来より伝わる様々な風習があり、それぞれに「食べると縁起いい」とされる料理、所謂「行事食」があります。では、代表的な「桃の節句」の料理と云ったら、ちらし寿司、蛤(はまぐり)のお吸い物、ひなあられ、菱餅といったものが挙げられます。まず、ちらし寿司の食材の“えび”の長生き、“れんこん”の見通しがいいに“豆”の健康でマメに働ける、などの意味が込められており、人参、卵や絹さやなどの色鮮やかな具材が脇を固め、華やかさを演出してくれています。“対”の貝殻はいつでもぴったりと合わさるといふ縁起で、蛤のお吸い物は、我が子にいい結婚、いい夫婦になってほしい、との願いが込められています。そして、緑・白・ピンクの3色の餅を重ね合わせ菱形に切った、見た目も美しく可愛らしい形状の菱餅。それぞれの色には意味があり、緑色は”草萌える大地”から”健康や長寿”、白色は”雪解け”から”清浄”、ピンク色は”桃の花”から”魔除け”という風に”季節の変化”から我が子の健康を願う意味が込められています。この菱餅を砕いて揚げたのが”ひなあられ”の始まりだと言われています。保育園でも各風習に合わせて行事食を提供し、こどもたちが「食」からも学べる機会になればと思ひますのでよろしくお祈りします。